

第17回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

東京都立武蔵高等学校・附属中学校 高橋 勝也 教諭

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

自分が生徒・学生するとき、一方通行的な講義式授業が大嫌いでした。自分が教師になったら、全く異なるスタイルの授業をしたいと思っていました。そんなとき、日経ストックリーグの存在を知りました。これは、生徒が主体的に学べる教材であると直感しました。参加を呼び掛けると、4人の中学3年生が集まりました。なんと、いきなりデビュー戦で部門賞を獲得しました。それから、生徒たちが燃えたことは言うまでもありません。多くの後輩が先輩の背中を追いかけるようになりました。

STOCK リーグの取り組みについて

自主性を尊重して、できる限り口を出さないようにしています。チームは有志が集まって編成されるので、放課後を中心に活動しています。そのため、経済や金融の基本的なしくみや考え方は授業で教授して、放課後の活動は好き勝手にさせています。私の生徒はいい子たちばかりで、僕がアドバイスすると悪い意味で僕を持ち上げようとするのです。つまり、自分たちの思うようにできなくなってしまいます。ですから、テーマ設定以外は、基本的に自主的にさせています。

参加を終えて

初めて参加した生徒たちが社会人になりました。高校・大学では、それぞれの分野で大活躍を果たしています。彼らはこれからの日本、世界を引っ張っていく人材へと立派に成長しています。「常にどうしたら社会が良くなるのかを考え続けるんだ！」という私の指導に、ずっと応えてくれます。教師冥利に尽きます。これからも日経ストックリーグを通じて、素晴らしい人材を育成してまいります。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

第 17 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント**愛知県立愛知商業高等学校 寺田 陽一 教諭****受賞コメント****STOCK リーグ参加の経緯**

私は教員として働く以前に、民間企業で勤務しておりました。その時に、友人の勧めもあり株式投資を行いました。IT バブルの時代でしたが、株式投資を始めた時期が悪く、ちょうど崩壊を迎えた頃でした。自己の財産を守るために必死に株式について勉強し、日本や世界のニュース、海外の株式市場の動向に毎日敏感になっていました。結果的に損失を出しましたが、株式投資によって経済の楽しさや難しさ、日本と世界の繋がりなど、本当に多くのことを学ぶことができました。この経験から教員として働き始め、株式を通じて生きた経済に触れ、その面白さや株式と経済の関連性を生徒に伝えたいと思ったのが STOCK リーグ参加のきっかけです。

本校では 3 年生の課題研究の授業でこの講座を開講しています。商業高校で学ぶ生徒にとって、株式学習は商業で学んだ総まとめの学習になると考えています。日経 STOCK リーグは簿記会計や情報処理、マーケティングなど、商業高校で学んだ知識を総動員して取り組むことができるプログラムであり、そのような機会を与えていただいていることに感謝しています。

STOCK リーグの取り組みについて

多数の生徒が「経済」や「株式」という言葉だけで難しく考えてしまいます。それらをいかに楽しく学ばせるかという点に最も留意しています。まずは株主優待など興味の湧く話題から株式に触れています。また、社会を知るために最も身近なツールである新聞をよく使います。新聞は手軽に地域から世界のニュースまで幅広い知識を与えてくれます。話題の記事を授業の冒頭で紹介し、その記事と株価の関連性についても触れています。生徒個々が興味を持っているニュースを調べ、発表させる取り組みも行いました。

楽しいと感じることができれば自然と学びのモチベーションは上がります。導入部分でそれが達成できるよう心がけています。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

本校はユネスコスクールであり、ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方に則り、後世に住みよい環境を残していくためには何をすべきかを考え、テーマ設定を行っています。授業や行事、生徒会活動でESDについて考える機会が多く、生徒の発想が自然とESDへ向かい、他を思いやる優しい心が育まれています。そのような素晴らしい環境で共に学ばせていただけていることに感謝しています。

参加を終えて

1年間の学習を進めるにあたり、最終目標を「STOCK リーグ日本一」に設定しております。高い目標はより高い意識を生み出し、力以上のパフォーマンスを創り上げると考えています。また、「最高のものを見せる」ことも意識しています。STOCK リーグは歴代の受賞作品を見ることができ、「最高のもの」を知ることができます。「最高」を初めに知れば、それが自分たちのスタンダードとなり、自然と高いレベルを目指すようになると考えています。

STOCK リーグへの参加は非常に多くの方々にご協力いただいています。校外研修先はもちろん、それを実現させるために繋げてくださった方も多数いらっしゃいます。また、本校の先生方には多くの場面で助けていただきました。一つの目標であるSTOCK リーグが本当に多くの方との繋がりを生みだしてくれました。今後もこのご縁を大切に、一歩ずつ勉強していきたいと考えております。最後に、STOCK リーグという素晴らしい学習の場を与えて頂いた日本経済新聞社、野村グループ、そして、私たちの研究に快くご協力いただいた皆様に、この場をお借りして心から感謝と御礼を申し上げます。

第17回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

東京経済大学 石川 雅也 准教授

受賞コメント

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

STOCK リーグ参加の経緯

東京経済大学で金融を専門とするゼミを持つようになって2年目に先輩の先生方に教えていただいたことがきっかけでした。その前の1年では、東京経済大学ではゼミは2年次から始まることもあり、まずは基礎をしっかりと学んでもらおうと1年かけてテキストをしっかりと学んでみたのですが、うまく学生のモチベーションを上げることができず、結果、学生から「就活でゼミのことを聞かれても何も話せない」と言われてしまいました。実践を通して学ばせていくことの大切さを痛感しました。以降、毎年参加させていただいている日経 STOCK リーグは、学生たちにとってゼミで学んだことを高いモチベーションをもってアウトプットする場としても、学んだことと実際の社会、経済とのつながりを実感する場、社会を深く見通すためにはさらにしっかりと学んでいく必要性を再認識する場としても、非常に貴重な学びの場となっています。

STOCK リーグの取り組みについて

基本的には学生の自主性で全ての取り組みをやりきってもらうようにサポート役に徹しています。とはいえ、レポート作成経験はおろか金融の学習も半年足らずといった学生にも取り組んでもらうので、特に、テーマ探しやデータを使った分析、実地調査などにおいて、そもそもどう動いたらいいかわからない、というようなケースでの最初の一步目については、単に教えるのではなく、放任するのもなく、一緒に取り組むようにしています。その際、最も効果的なのが参加経験のある先輩学生による後輩学生への指導です。この経験やそこから得たノウハウを仲間に引き継いでいくということは、社会に出てからもとても大切なことですが、これをゼミのグループレポートの取り組みで実践できるのは、長い期間、素晴らしい運営、サポートの中で毎年開催されている日経 STOCK リーグだからこその魅力だと感じています。初めて参加した年、1チームも2次審査を突破できなかったのですが、その悔しさをばねに、次の年にグループメンバー間で時に熱くけんかをしながら入選まで進むことができたときの先輩たちの喜びと経験が、今もうまく引き継がれていっていることがうれしいですね。

参加を終えて

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

テーマを設定することも、論理的に考察することも、データを使った分析をすることも、実地調査で企業に飛び込むことも、それらをレポートとしてまとめ上げることも、グループで一つのことに取り組むことも、学生はどれも必ず悪戦苦闘します。また、単に自己満足の考察でなく、コンテストに向けて、すなわち他者の評価も意識しながら、これらの知的作業に取り組むため、毎回学生たちは締切間近の時期は相当追い込まれます。さらに、明確な結果が出るため、喜びも悔しさも他の学習とは一味もふた味も違います。でもだからこそ、やり遂げた学生は大きく成長し、社会や金融に対するアンテナ、意識が見違えるようになることに毎回驚かされます。

この大きな教育効果は、運営、ご支援をしてくださる関係者の皆様、またともに切磋琢磨する参加者の皆様が日経 STOCK リーグをこれほどまでに盛り上げて下さっているからこそ得られているものであり、心から感謝申し上げますと同時に、これからも参加ゼミの一つとして、学生とともに真剣な取り組みを通じて多くのものを学んでいきたいと思っております。

第 17 回 NOMURA Award (特別協賛社賞) 受賞者コメント

創価大学 平岡 秀福 教授

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

参加のきっかけは日本経済新聞を見てです。会計と投資をゼミで結びつけたかったのが目的です。参加する前は、日経新聞やビジネス雑誌、関連文献を学生とともに読んでプレゼンやディスカッションを繰り返していました。

STOCK リーグの取り組みについて

まず日経 STOCK リーグとは何かを説明し、意識づけをし、あとは合宿や普段のゼミでプレゼンを頻繁にやりました。投資ポートフォリオやレポートの締切日から逆算して、あと何日ということ

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

とにかく意識させました。時には叱咤激励し、良く進んだ時はとにかく褒めました。1次予選や2次予選を勝ち抜いたとき、学生が御世辞でも「先生のおかげです」と言ってくれたことは素直にうれしかったし、印象に残っています。

参加を終えて

学生が自ら考えるアクティブラーニングの実践に最適なコンテストであると思います。サークル活動やその他の勉強、アルバイトなどとの両立をいかにアドバイスするかという点は苦勞しましたが、学生の企業を見る目を養うきっかけとなりますし、学生がチームワークをつける良い機会となります。

第 17 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

青山学院大学 中里 宗敬 教授

受賞コメント

STOCK リーグ参加の経緯

私のゼミは証券市場の分析をテーマにしています。日経 STOCK リーグについては 10 数年前に同僚に紹介されたのがきっかけで、それ以来、ゼミ 3 年生の活動として毎年参加しています。3 年生の前半は証券投資に関わる専門書の輪読、後半は日経 STOCK リーグへの参加というのが今のスタイルです。ゼミ合宿では、先輩の 4 年生からアドバイスを受けるのが定番です。毎年、3 年生がどんなテーマを選ぶのか、指導する私もワクワクしながら楽しみにしています。

STOCK リーグの取り組みについて

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

大学での学びはとかく座学や受け身の学習になりがちですが、日経 STOCK リーグに参加するようになってから、学生の自主性が格段に高まったように思います。ポートフォリオのテーマを自分のこととして考え、悩み、最後にチーム全体で1つに形作っていく過程は、他では得られない貴重な体験です。コンテストは目標とゴールがはっきりと示され、それに向かって邁進するというのが良いのですね。チームが活動する中で各々のメンバーがどんな立ち位置を見出すのかも、毎年見ていると興味深いところです。

参加を終えて

いつもチームが苦勞するのはテーマの絞り込みです。メンバーの1人ひとりが考え、持ち寄った複数のテーマの中から1か月ほどかけて最終的に1つに絞り込むわけです。その間の議論と最終的な選択方法は彼らに任せています。私はいつもハラハラしながら見守っています。このようなコンテストを毎年維持していくのはとても大変なことと思います。関係者の皆さまには心より感謝いたします。そして、ぜひ今後も続けていただけたらと思います。